

主要科目の目標、特長		
(外国語学部／英語コミュニケーション学科／国際ビジネスコミュニケーション専攻／国際ビジネスコース)		
授業科目の名称	目 標	特 長
Speaking 8	英語でコミュニケーションをとる時に、効果的に会話に参加するために必要なスキルを繰り返し練習し、身につけていく。自分が話す内容をしっかりと伝える力と、相手が言っていることに丁寧に耳を傾けて理解する力の両方を養う。例えば、話す時には英語の音のルールに従って、単調に話すのではなく、抑揚をつけて話す方法を学ぶ。これはリスニング力の向上にも結びつく。また、十分に自分や相手が言いたいことが分からないままコミュニケーションが終わってしまうことがないように、会話を維持し内容を発展させるために必要な、様々な方法を学ぶ（例：重要なポイントを繰り返す、質問をする、具体例を話す／聞く、など）。そして、コミュニケーションには、分かり合いたい、という前向きな姿勢が重要であり、間違いを恐れずに、自信を持って英語で話す姿勢も身につけていく。	平均ひとクラス8名の少人数で、ペアワークやグループワークを通して、英語コミュニケーション能力向上を目指す。教員とクラスメートから、良い点と改善点のフィードバックを頻繁にもらうことが出来るので、自分の英語コミュニケーション能力の強みと弱みを客観的に理解することができる。間違いは学びへの第一歩と捉え、英語でアイデアを伝え理解することの楽しさと実感出来る授業である。
キャリアデザイン I	自分らしいイキイキとした生き方をデザインするための基礎を創る。 ①文京生として清々しいマナーを心得実践できる ②大学生活のスタートとして、「やる気」と「意識」を高めることができる ③社会人として必要な社会人基礎力を理解し実践できる ④自己理解を通し、自身の将来のキャリアをデザインできる	経済産業省が提唱する社会人基礎力、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）を丁寧に育成することにより、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を身に着ける。各自の能力を発揮するために、自己を認識して振り返りながら、将来の目的、現在の学びを統合することにより、自らのキャリアを切り開く糧とする。
初年次セミナー	英語スキル系科目、教養科目、情報処理科目、第二外国語科目、基礎科目等の導入・補完的役割を果たしており、以下の4つの柱がある。 ①学習上の技能向上に資するもの ②英語スキル向上に資するもの ③大学生活全体を見通した学習プランの作成チェック ④大学生としての生活と倫理的なもの 上記にそれぞれ記載された学習上の知識・技能・スキルの修得等を目標とする。	グループアドバイザー（教員）が全体講義および課題を中心に、前週の講義のフォローアップを行う。グループプレゼンテーションあるいはグループディスカッションを行い、チームワークの育成、学習意欲の維持も目指す。
ビジネスライティング	履修する学生が、社会人、特にビジネスにおいて活躍するビジネスパーソンが理経しておくべき、ビジネス英語を理解できるようになることをこの授業の到達目標とする。現実のビジネス社会では、メール、ビジネスレター、一対一の電話での会話、複数の参加者がある電話会議、など様々な状況で英語を使つての有効なコミュニケーションが求められる。履修する学生が、これらの状況に応じた表現方法を用いてコミュニケーションできるようになることも併せて、この授業の到達目標とする。	TOEICの過去問なども活用しながら、Reading、短文空所補充問題、長文空所補充問題の課題を中心に、読む力、書く力、文章力を養い、毎回、小テスト、ビジネス文書作成を課題としている。
ゼミナール 卒業研究	少人数クラスで研究課題に取り組み、国際ビジネスコミュニケーションに関する知見を広めることを目標とする。学生が各自の研究テーマを設定し、卒業論文を完成させる過程で、専門的な知識を深めることを目指す。	3、4年次の2年間、担当教員の指導を受け専門領域を学修する。調査法や分析方法を修得し、研究成果の発表やディスカッション等のアクティブラーニングを行う。最終学年には、卒業論文を執筆する。

主要科目の目標、特長

(外国語学部／英語コミュニケーション学科／国際教養コミュニケーション専攻／国際協力コース)

授業科目の名称	目 標	特 長
Speaking 8	英語でコミュニケーションをとる時に、効果的に会話に参加するために必要なスキルを繰り返し練習し、身につけていく。自分が話す内容をしっかりと伝える力と、相手が言っていることに丁寧に耳を傾けて理解する力の両方を養う。例えば、話す時には英語の音のルールに従って、単調に話すのではなく、抑揚をつけて話す方法を学ぶ。これはリスニング力の向上にも結びつく。また、十分に自分や相手が言いたいことが分からないままコミュニケーションが終わってしまうことがないように、会話を維持し内容を発展させるために必要な、様々な方法を学ぶ（例：重要なポイントを繰り返す、質問をする、具体例を話す／聞く、など）。そして、コミュニケーションには、分かり合いたい、という前向きな姿勢が重要であり、間違いを恐れずに、自信を持って英語で話す姿勢も身につけていく。	平均ひとクラス8名の少人数で、ペアワークやグループワークを通して、英語コミュニケーション能力向上を目指す。教員とクラスメートから、良い点と改善点のフィードバックを頻繁にもらうことができるので、自分の英語コミュニケーション能力の強みと弱みを客観的に理解することができる。間違いは学びへの第一歩と捉え、英語でアイデアを伝え理解することの楽しさと実感出来る授業である。
キャリアデザインⅠ	自分らしいイキイキとした生き方をデザインするための基礎を創る。 ①文京生として清々しいマナーを心得実践できる ②大学生活のスタートとして、「やる気」と「意識」を高めることができる ③社会人として必要な社会人基礎力を理解し実践できる ④自己理解を通し、自身の将来のキャリアをデザインできる	経済産業省が提唱する社会人基礎力、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）を丁寧に育成することにより、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を身に着ける。各自の能力を発揮するために、自己を認識して振り返りながら、将来の目的、現在の学びを統合することにより、自らのキャリアを切り開く糧とする。
初年次セミナー	英語スキル系科目、教養科目、情報処理科目、第二外国語科目、基礎科目等の導入・補完的役割を果たしており、以下の4つの柱がある。 ①学習上の技能向上に資するもの ②英語スキル向上に資するもの ③大学生活全体を見通した学習プランの作成チェック ④大学生としての生活と倫理的なもの 上記にそれぞれ記載された学習上の知識・技能・スキルの修得等を目標とする。	グループアドバイザー（教員）が全体講義および課題を中心に、前週の講義のフォローアップを行う。グループプレゼンテーションあるいはグループディスカッションを行い、チームワークの育成、学習意欲の維持も目指す。
ジェンダーと開発	発展途上国の開発課題の中で、ジェンダーに基づく課題について基礎知識を学び、ジェンダーの視点から分析する能力を習得することを目標とする。発展途上国で生じている課題を記述し、ジェンダー視点から要因や課題への取り組みを分析し、改善策を提案できることを目指す。	発展途上国で生じている開発課題について、教育、保健医療、経済活動、貧困対策、農業、女性に対する暴力など分野別に取り上げ、データや映像を使った講義を行う。毎回、グループごとに事例を読み解きディスカッションをし、クラスでのプレゼンテーションを行う。

<p>ゼミナール 卒業研究</p>	<p>世界各国の貧困、人権侵害などの問題を解決するために、国際機関、政府、NGO、企業、当事者団体などがどのような取り組みを行なっているかを学び、地球市民（多様性を尊重し合い、共生を求める自律的な市民）としてどのように考え、行動をとることが必要なかを検討する。「動き出そう。私から」をモットーに、海外の現場はもちろん、国内で地球市民としてできる国際協力の実践についても考える。国際協力や他者支援の現場や社会で実際に役立つ問題解決能力、コミュニケーション力、および、語学力を身につける。 現場型学習に力を入れ、夏休み、もしくは春休みにカンボジアまたはネパールでフィールドワークを開講する。</p>	<p>3、4年次の2年間、担当教員の指導を受け専門領域を学修する。調査法や分析方法を修得し、研究成果の発表やディスカッション等のアクティブラーニングを行う。最終学年には、卒業論文を執筆する。</p>
-----------------------	---	---

主要科目の目標、特長

(外国語学部／英語コミュニケーション学科／国際教養コミュニケーション専攻／英語教育コース)

授業科目の名称	目 標	特 長
Speaking 8	<p>英語でコミュニケーションをとる時に、効果的に会話に参加するために必要なスキルを繰り返し練習し、身につけていく。自分が話す内容をしっかりと伝える力と、相手が言っていることに丁寧に耳を傾けて理解する力の両方を養う。例えば、話す時には英語の音のルールに従って、単調に話すのではなく、抑揚をつけて話す方法を学ぶ。これはリスニング力の向上にも結びつく。また、十分に自分や相手が言いたいことが分からないままコミュニケーションが終わってしまうことがないように、会話を維持し内容を発展させるために必要な、様々な方法を学ぶ（例：重要なポイントを繰り返す、質問をする、具体例を話す／聞く、など）。そして、コミュニケーションには、分かり合いたい、という前向きな姿勢が重要であり、間違いを恐れずに、自信を持って英語で話す姿勢も身につけていく。</p>	<p>平均ひとクラス8名の少人数で、ペアワークやグループワークを通して、英語コミュニケーション能力向上を目指す。教員とクラスメートから、良い点と改善点のフィードバックを頻繁にもらうことが出来るので、自分の英語コミュニケーション能力の強みと弱みを客観的に理解することができる。間違いは学びへの第一歩と捉え、英語でアイデアを伝え理解することの楽しさと実感出来る授業である。</p>
キャリアデザインⅠ	<p>自分らしいイキイキとした生き方をデザインするための基礎を創る。 ①文京生として清々しいマナーを心得実践できる ②大学生活のスタートとして、「やる気」と「意識」を高めることができる ③社会人として必要な社会人基礎力を理解し実践できる ④自己理解を通し、自身の将来のキャリアをデザインできる</p>	<p>経済産業省が提唱する社会人基礎力、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）を丁寧に育成することにより、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を身につける。各自の能力を発揮するために、自己を認識して振り返りながら、将来の目的、現在の学びを統合することにより、自らのキャリアを切り開く糧とする。</p>
初年次セミナー	<p>英語スキル系科目、教養科目、情報処理科目、第二外国語科目、基礎科目等の導入・補完的役割を果たしており、以下の4つの柱がある。 ①学習上の技能向上に資するもの ②英語スキル向上に資するもの ③大学生活全体を見通した学習プランの作成チェック ④大学生としての生活と倫理的なもの 上記にそれぞれ記載された学習上の知識・技能・スキルの修得等を目標とする。</p>	<p>グループアドバイザー（教員）が全体講義および課題を中心に、前週の講義のフォローアップを行う。グループプレゼンテーションあるいはグループディスカッションを行い、チームワークの育成、学習意欲の維持も目指す。</p>
児童英語教育論	<p>児童英語教育の現状と課題をはじめ、この分野の基礎理論について学ぶ。小学校英語活動の目標・教育内容と方法、評価の在り方と方法等に関する基礎的知識を具体的に身につけることを目標とする。</p>	<p>先行研究の資料を参考に、積極的な討議形式で授業を行う。</p>
ゼミナール 卒業研究	<p>国際的に通用する英語によるコミュニケーション力（資質・能力）を養うために必要な理論的かつ実際の専門知識及び技能を身につける。 上記の教育目的を全うするために、1～2年時の英語コミュニケーション教育等を基礎の上に、①英語学・応用言語学 ②21世紀型の資質・能力を養成するためのコミュニケーション教育・グローバル教育・異文化間教育に求められる専門的知識と英語の運用技能等、③英語教育学の知識と技能を身につける。</p>	<p>3、4年次の2年間、担当教員の指導を受け専門領域を学修する。調査法や分析方法を修得し、研究成果の発表やディスカッション等のアクティブラーニングを行う。最終学年には、卒業論文を執筆する。</p>

主要科目の目標、特長		
(外国語学部／英語コミュニケーション学科／国際教養コミュニケーション専攻／国際文化コース)		
授業科目の名称	目 標	特 長
Speaking 8	英語でコミュニケーションをとる時に、効果的に会話に参加するために必要なスキルを繰り返し練習し、身につけていく。自分が話す内容をしっかりと伝える力と、相手が言っていることに丁寧に耳を傾けて理解する力の両方を養う。例えば、話す時には英語の音のルールに従って、単調に話すのではなく、抑揚をつけて話す方法を学ぶ。これはリスニング力の向上にも結びつく。また、十分に自分や相手が言いたいことが分からないままコミュニケーションが終わってしまうことがないように、会話を維持し内容を発展させるために必要な、様々な方法を学ぶ(例：重要なポイントを繰り返し、質問をする、具体例を話す／聞く、など)。そして、コミュニケーションには、分かり合いたい、という前向きな姿勢が重要であり、間違いを恐れずに、自信を持って英語で話す姿勢も身につけていく。	平均ひとクラス8名の少人数で、ペアワークやグループワークを通して、英語コミュニケーション能力向上を目指す。教員とクラスメートから、良い点と改善点のフィードバックを頻繁にもらうことが出来るので、自分の英語コミュニケーション能力の強みと弱みを客観的に理解することができる。間違いは学びへの第一歩と捉え、英語でアイデアを伝え理解することの楽しさと実感出来る授業である。
キャリアデザイン I	自分らしいイキイキとした生き方をデザインするための基礎を創る。 ①文京生として清々しいマナーを心得実践できる ②大学生生活のスタートとして、「やる気」と「意識」を高めることができる ③社会人として必要な社会人基礎力を理解し実践できる ④自己理解を通し、自身の将来のキャリアをデザインできる	経済産業省が提唱する社会人基礎力、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)を丁寧に育成することにより、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を身に付ける。各自の能力を発揮するために、自己を認識して振り返りながら、将来の目的、現在の学びを統合することにより、自らのキャリアを切り開く糧とする。
初年次セミナー	英語スキル系科目、教養科目、情報処理科目、第二外国語科目、基礎科目等の導入・補完的役割を果たしており、以下の4つの柱がある。 ①学習上の技能向上に資するもの ②英語スキル向上に資するもの ③大学生活全体を見通した学習プランの作成チェック ④大学生としての生活と倫理的なもの 上記にそれぞれ記載された学習上の知識・技能・スキルの修得等を目標とする。	グループアドバイザー(教員)が全体講義および課題を中心に、前週の講義のフォローアップを行う。グループプレゼンテーションあるいはグループディスカッションを行い、チームワークの育成、学習意欲の維持も目指す。
American Government	アメリカ社会はいろいろな問題をかかえ、その解決をめざして、市民が対立と合意のプロセスをくりかえしている。このプロセスにおける団体や政党のかわり、議会、大統領、最高裁の役割、合衆国憲法は問題の解決に役立つのか、など基本的な問題を学び、アメリカ社会の理解を深めることを目標とする。	アメリカの政治、経済、社会の仕組みについて、わかりやすく説明する。画像を含めたスライド(パワーポイント)を使用し、毎回の講義をすすめる。またスライドについては、プリントアウトし配布する。
ゼミナール 卒業研究	他者(異言語・異文化)に対する寛容さと、価値の多様性を認める柔軟な思考力を養うとともに、多言語・多言語社会のはらむ諸問題を探究し、かつ自己の言語や文化について相対的かつ多角的に内省を深めることを目指す。 広い視野と柔軟な思考力をそなえ、自ら調査・研究した結果を発信でき、国際社会に貢献できる人材を育成する。 コース合同ゼミナールを、年間で2回程度開催予定。幅広い視野を育成するために、種々の分野で活躍中の講師を招聘したり、見学に出かけたりする予定。 希望者を対象に休暇期間を利用して、アメリカ・イギリス・韓国方面への海外フィールドワークを実施し、現地で調査や交流を行う。	3、4年次の2年間、担当教員の指導を受け専門領域を学修する。調査法や分析方法を修得し、研究成果の発表やディスカッション等のアクティブラーニングを行う。最終学年には、卒業論文を執筆する。